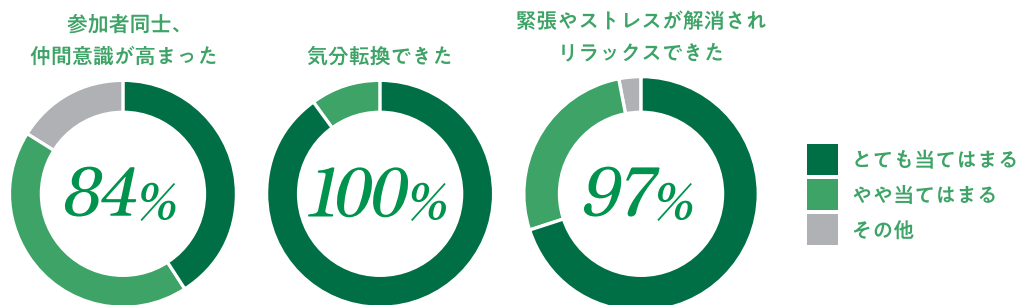


森のプログラム効果 ～森のプログラム参加者へのアンケート結果～

参加者の8割が参加者同士の仲間意識が高まったと回答した。また、ほとんどの参加者が気分転換やリラックスが出来たと回答している。



注) 2024年度にTDKラムダ株式会社が実施した新入社員研修等で森のプログラムに参加した社員を対象としたアンケート調査結果 (N=37)



社員の声

新入社員のころは緊張してストレスも感じていましたが、自然の中でリラックスできたり、同期と一緒に森のプログラムを体験したことで、お互いに緊張せず打ち解けあうことができたように感じます。入社後半年たったタイミングでの研修は、森のプログラムに参加している中でリラックスすることができ、同期同士でお互いの仕事の大変さを共有し、また頑張ろうと励ましあういい機会になりました。



企業担当者の声

活動の場としている社有林は、「自分たちの森」という意識が根付いているようです。活動を通して、相談できる雰囲気、支え合える関係が築かれ、結果的に早期退職者の割合が減少しました。また、採用活動時に、森のプログラムを話すことで、関心を持たれることも増えました。
(人事部 人財グループ)

	都市で研修 (05-07年)	山村で研修 (08-21年)
新卒採用者	43人	194人
3年以内退職者 (離職率)	5人 12%	7人 4%



受け入れ
山村地域の声

新入社員研修では、ものづくり体験プログラムが重要な役割を果たしています。「ものづくりの会社なので同期メンバーみんなで何かを作る体験をしてもらいたい」という企業からの要望に応え、オブジェづくりなどを通じてチームワークとコミュニケーションの重要性を学ぶ機会を提供しています。また、森林セラピーを提供する際には、同じ森林メディカルトレーナーが継続して担当することによって、社員の方が相談などをしやすい関係を築いています。(しなの町 Woods-Life Community)





活用事例

02

森でのウォーキングイベントで 社員の健康づくりと地域との関係づくり、企業プロモーションも

株式会社でん六（菓子製造業 本社所在地：山形県山形市）

【導入の背景】社員向けのウォーキングイベントを開催していたところ、同社の工場が所在し、クアオルトのまちづくりを推進する山形県上山市からの働きかけにより、2012 年から同市内でのクアオルト健康ウォーキングを自社イベントに導入。上山市と「クアオルトかみのやま」健康経営相互応援協定」も締結している。

【実施目的・内容】社員が参加しやすい健康増進プログラムとして、上山市やクアオルトのガイドを行う「蔵王テラポイト協会」の協力を得て、クアオルト健康ウォーキングのイベントを年2回開催している。社員やその家族だけでなく、地域の方も対象とすることで、地域との関係づくりや企業プロモーションの機会にもなっている。

イベントにおける森のプログラム例

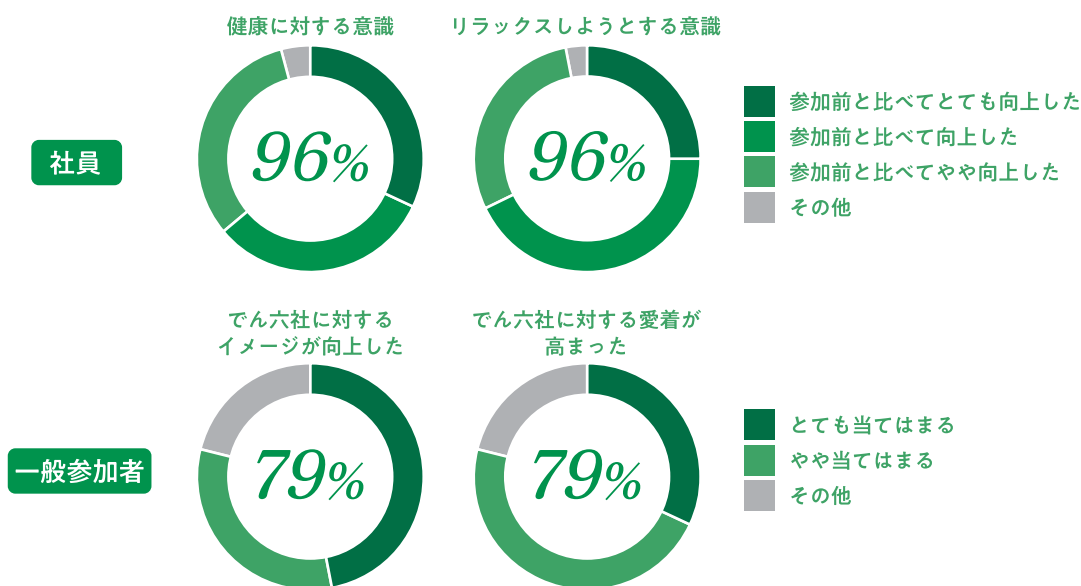
（2024年10月開催）

- ・心拍数等計測
- ・開会式、ガイドによる説明
- ・西山コースでのクアオルト健康ウォーキング
- ・でん六社商品抽選会
- ・クアオルト弁当等配布



森のプログラム効果 ～森のプログラム参加者へのアンケート結果～

参加した社員のほとんどが、健康やリラックスしようとする意識が向上したと回答しており、「無理なく運動不足の解消ができる」「森の中でリフレッシュできる」といった理由が多かった。また、一般参加者の約 8 割がでん六社へのイメージや愛着が高まったと回答している。



注) 2024 年 10 月に株式会社でん六が開催したクアオルト健康ウォーキングのイベントに参加した者を対象としたアンケート調査結果 (社員: N=29、一般参加者: N=19)



一般参加者の声

- ・気分転換ができて最高でした。・企業主催のプログラムで、頑張っているんだなと感じました。
- ・地元企業を応援したい。



企業担当者の声

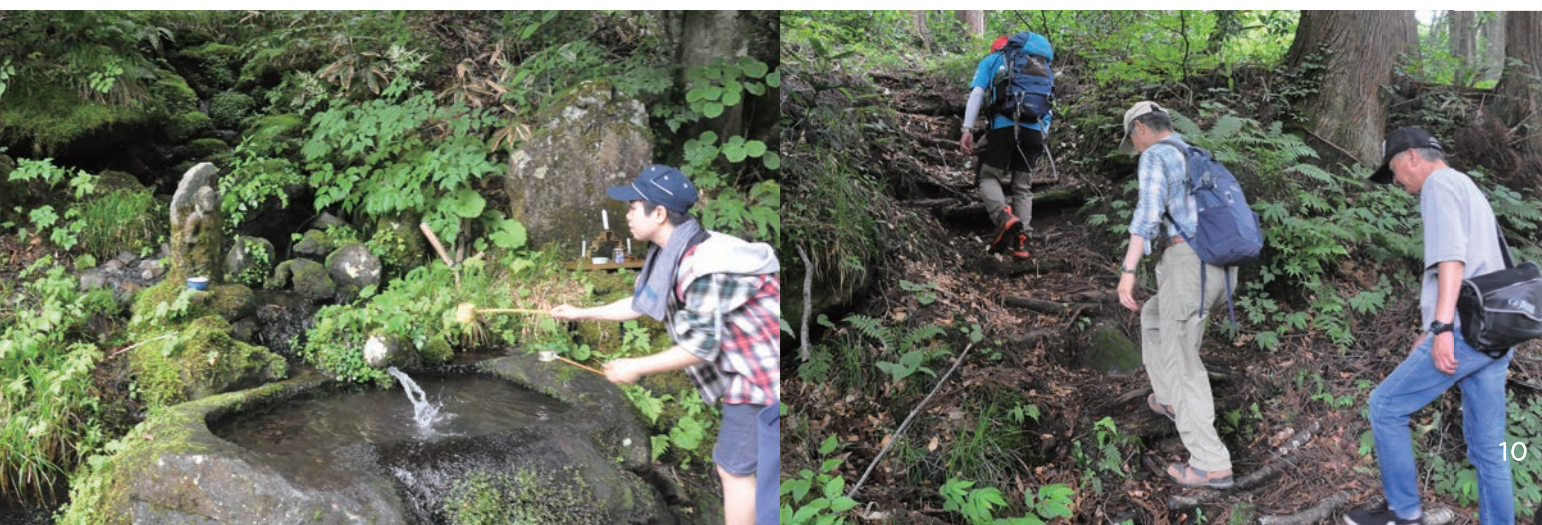
社員が自分の体に向き合うようになり、健康経営に対する理解も向上したと感じています。また、社内のスタッフ部門と製造職の方がざっくばらんに話ができるようになりました。地域の方に参加していただくことで、企業のイメージアップにもつながっていると考えます。このイベントを開催していることによって、健康経営優良法人の認定申請時に、認定基準「コミュニケーションの促進に向けた取り組み」「運動の機会に向けた取り組み」にチェックをいれることができます。



受け入れ山村地域の声

13年間継続いただき参加者数も 1,000 人を超える本市に定着したイベントです。森林空間を活用したクアオルト健康ウォーキングは、市民の健康増進と交流人口拡大の土台となる、美しい風景づくり (環境保全) につながっています。(山形県上山市)

写真提供: 株式会社でん六





活用事例

03

林業や国産材利用意義について学ぶプログラムで 自社事業や企業理念の理解向上、業務へのモチベーションも向上

株式会社オカムラ（製造・販売業、物流業 本社：神奈川県横浜市）

【導入の背景】 生物多様性と自然共生に向けた活動を 2010 年からスタートし、2011 年に ACORN 活動として発足。生物多様性の意義を学ぶ研修として長野県黒姫にあるアフンの森での研修を実施している。

【実施目的・内容】 生物多様性の保全課題として人工林の保全の為に国産木材利用を推進。2023 年から東京都檜原村の林業事業体の協力を得て、国産材家具の提案販売業務に携わるデザイナーや営業職を対象として、生物多様性保全と人工林の関係と、人工林保全をサステナブルにしていくための課題を学ぶ研修を実施している。

研修における森のプログラム例

2024 年 ACORN 社員研修（国産材活用意義）

【前日】

- ・事前オンライン研修
（自社及び林業事業体の取組について）

【当日】

- ・人工林の視察（林業の現状・自社製品との結びつき等）
- ・スツール制作ワークショップ
- ・木工加工の現場の視察
- ・檜原森のおもちゃ美術館での木工製品の視察

森のプログラム効果 ～森のプログラム参加者へのアンケート結果～

参加者全員が、森林や環境保全や自社の取組に対する理解が深まったと回答。また、約 9 割が、業務に対するモチベーションが向上したと回答している。

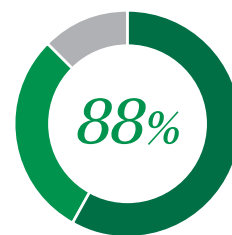
自社の取り組みに対する
理解が深まりましたか？

- 当てはまる
- やや当てはまる
- その他



自身の業務に対する
モチベーションが高まりましたか？

- 当てはまる
- やや当てはまる
- その他



注）2024 年 9 月に株式会社オカムラが実施した社員研修で森のプログラムに参加した社員を対象としたアンケート調査結果（N=30）（データ提供：株式会社オカムラ）



社員の声

主伐材をきちんと使って森を育てていくことが大事だと気付かされました。／ 木の新製品開発を積極的に考えていきたい。／ 国産木材使用の必要性をアピールするのに実体験を話すことができました。／ 今後、木材の役割や木材を選択することによる自然への影響など、包括的に説明して提案ができると思っています。



企業担当者の声

導入にあたり、パートナーや場所を慎重に選択したことによって、業務に直結した内容のプログラムを実施することができました。国産材活用の意義や木材の魅力、自社ビジネスとの関わりに対する理解が深まり、国産材を用いた提案販売等の業務に活かすことができています。（環境マネジメント室）

写真提供：株式会社オカムラ



活用事例

04

癒やしと交流のプログラムでチームビルディングと心と体の健康づくり、社会貢献への意識向上

アルファテックス株式会社（IT業 本社：東京都品川区）

【導入の背景】業務上、社員間の交流の少なさや終日のデスクワークといった課題があり、社員の交流と健康増進を検討していたところ、豊かな自然を活用したセラピープログラム等を提供している小海町と出会い、社員研修として森のプログラムを導入している。

【実施目的・内容】仲間意識の醸成、心と体の健康づくり、人間力・社会力の研鑽を目的として、森林の中で五感を開くセラピーウォーク等のプログラムや、焚き火を囲んだ仲間との交流、町職員とのディスカッションを実施。近年は、音楽祭の開催やワインづくりなど、町の地域活性化に向けた取り組みに対して積極的に協力している。

研修における森のプログラム例

2024年中堅社員研修

【前日】

- ・森林セラピー
- ・焚き火セラピー

【当日】

- ・紅葉ウォーク
- ・ワーケーション

森のプログラム効果 ～森のプログラム参加者へのアンケート結果～

参加者全員が、気分転換できた、一緒にプログラムに参加した社員と話しやすくなった、訪問した地域に貢献したい気持ちが高まったと回答している。

気分転換できた



一緒に森のプログラムに参加した社内の人と話しやすくなった



森のプログラムで訪問した地域に貢献したいという気持ちが高まった



■ 当てはまる
■ やや当てはまる
■ その他

注) 2024年10月にアルファテックス株式会社が中堅社員を対象に実施した社員研修で森のプログラムに参加した社員を対象としたアンケート調査結果 (N=7)



社員の声

自然の中を歩きながら対話することでリラックスして交流を深めることができました。会議室で膝を突き合わせての会議ではできないような話がたくさん出て横のつながりが強固になったと感じています。/ リフレッシュでき、以前よりも時間に追われている感覚が無く冷静に取り組んでいます。/ 仲間意識の醸成、人間力の研鑽、コアバリューの理解など、気づきが沢山あり参加できて良かったと思いました。



企業担当者の声

セラピープログラムだけでなく、町のイベントに参加することで地域への関心を高めることができたり、ワーケーションを通して他部門の業務に対する関心を高めることもできました。従業員が初対面同士であっても、活発にコミュニケーションを取ったり、協力して研修会場の設営・片付けなどを行う場面なども見られます。(ソリューショングループ)

写真提供：アルファテックス株式会社

森林サービス産業推進地域

林野庁では、(公社)国土緑化推進機構とともに、地方自治体と民間企業・団体などが連携して、森のプログラムの提供等に取り組む地域を「森林サービス産業推進地域」として登録し、各推進地域の特徴やアクセス、提供プログラム、近隣の利用可能な施設、問合せ先等の情報をとりまとめて公表しています。推進地域や提供プログラムについて、最新の情報を林野庁ホームページに掲載しています。

林野庁 森林サービス産業推進地域 検索

<https://www.rinya.maff.go.jp/j/sanson/kassei/sangyou/area.html>



岡山県西栗倉村地域



滋賀県栗東市地域



東京都奥多摩町地域

企業における森のプログラム活用事例

企業における森のプログラムの活用事例については、林野庁ホームページに、本冊子掲載事例以外にも多く掲載しています。多様な分野の企業での森のプログラムの活用について、導入の経緯や決め手、取組内容やその効果、参加社員や企業担当者の生の声などを紹介しており、新たに活用を検討されるにあたって参考にしていただける資料です。

林野庁 森のプログラム活用事例 検索

<https://www.rinya.maff.go.jp/j/sanson/kassei/sangyou/riyouzirei.html>



森林の循環利用とSDGsの関係

森林は、地球温暖化防止や生物多様性の保全、災害防止、水源涵養等の機能を持ち、SDGsとも深い関係があります。また、森林がもつ癒やしやリフレッシュ等の効果は、私たちの well-being につながります。

森林がもつこうした価値は、企業活動に持続可能性が求められ、自然資本に対する取組が重要視される中、企業の経営課題の解決、ブランディング、社会的評価の向上等に役立つものとなっています。

※ SDGs とは、「持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals)」のことであり、社会が抱える問題を解決し、世界全体で 2030 年を目指して明るい未来を作るための 17 のゴールと 169 のターゲットで構成されている。

森林空間の利用



健康促進



森林環境
教育



雇用創出
人にやさしい



森林サービス
産業



地方創生

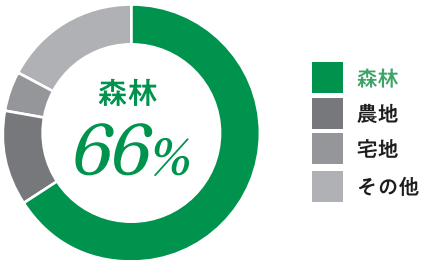


持続可能な
産業

日本の森林

我が国の森林面積は国土の3分の2に当たる約2,500万haであり、世界有数の森林国。
南北に長く標高差も大きいこと、暮らしや営みと森が密接に関わってきたことから、多様な森林が広がっています。
「森林浴」は、日本発祥で、現在では、海外にも広がっています。

国土面積の内訳



資料：国土交通省「令和6年版土地白書」（国土面積は令和2年の数値）
注1：計の不一致は、四捨五入による。
注2：林野庁「森林資源の現況」とは森林面積の調査手法及び時点が異なる。

世界との比較

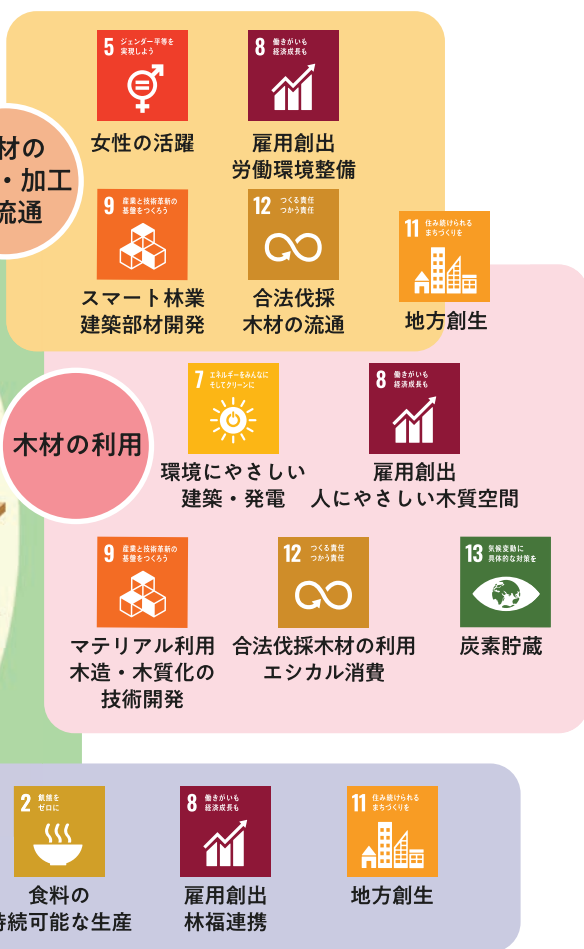
順位	国	森林面積	森林率
1	フィンランド	22,409	73.7
2	スウェーデン	27,980	68.7
3	日本	24,935	68.4
4	韓国	6,287	64.5
5	スロベキア	1,238	61.5

資料：FAO「世界森林資源評価 2020」を元に林野庁作成。
森林面積の単位は千ha、森林率は%。

—— 地域や標高、人の関わりに応じて多様な森林が存在 ——



人工林



きのこ・
ジビエ等の
利用

注1: アイコンの下文言は、期待される主な効果等を記載したものであり、各ゴールの解説ではない。
注2: このほか、ゴール1は森林に依存する人々の極度の貧困の撲滅、ゴール10は森林を利用する権利の保証、ゴール16は持続可能な森林経営を実施するためのガバナンスの枠組みの結果も含め、さらに SDDs への寄与が広がることが期待される。

Common Questions

森のプログラム活用 Q & A

Q

森のプログラムの情報はどこに掲載されていますか？

全国各地の「森林サービス産業推進地域」で、豊かな森林空間を活用し、特色ある様々な体験プログラム（森のプログラム）が提供されています。各推進地域の特徴やアクセス、提供プログラム、近隣の利用可能な施設、問合せ先等の情報は、林野庁ホームページで公表しています。

経営課題や研修等の目的、アクセスなどの要件にあった森のプログラム、推進地域探しに、ぜひご利用ください。

林野庁 森林サービス産業推進地域 検索

<https://www.rinya.maff.go.jp/j/sanson/kassei/sangyou/area.html>



Q

どこから始めたらいいですか？

① 森のプログラムの利用の目的等を明確化する

どのような目的で森のプログラムを導入するのか、解決したい企業課題は何か、重視する要件は何かなどを明確化することで、②の問合せ・相談が行いやすくなります。

② 「森林サービス産業推進地域」の窓口に関問合せ・相談してみる

上記の林野庁ホームページに掲載している各推進地域の紹介シートには、お問合せ先を掲載しています。

①で整理した目的等を踏まえて紹介シートをチェックし、気になった地域に関問合せ・相談してみましょう。

③ 森のプログラムを体験してみる

推進地域を訪れて、ぜひ実際に森のプログラムを体験してみてください。

林野庁ホームページでは、各推進地域でのイベント、モニターツアー開催情報も掲載しています。

Q

健康経営優良法人の認定要件のどのような評価項目に関係しますか？

実施内容に応じて、制度・施策実行に関する評価項目である「コミュニケーションの促進に向けた取り組み」や「運動機会の増進に向けた取り組み」などに関係します。

【お問合先】

林野庁 森林利用課 山村振興・緑化推進室 山村振興企画班

TEL 03-3502-0048

E-mail forest_style@maff.go.jp



発行元：林野庁（令和6年度森林コンテンツ育成・普及対策事業）発行日：2025年3月

林野庁